松村議員

新交通システムについて

問 勝山市の次世代公共交通として、東京大学が開発したバス運行システム「コンビニクル」の導入を強く求める。

　導入を求める理由は3点ある。

　一つは、市民の利便性が格段に高まる点である。「コンビニクル」はジャンボタクシーなどを勝山市が借り上げ、需要に応じて自由に動かす手法であり、いわば、タクシー感覚で公共交通を利用できる。「いつでも乗れる」「どこでも乗れる」「どこへでも行ける」といったフルデマンドを可能にするため、市内のどこに住んでいても公共交通の格差はゼロになる。

　二つ目は、行政負担を縮減する点である。人が乗らないにもかかわらず定時に走らせねばならない現行の路線バスと異なり、需要に応じて走らせる「コンビニクル」は行政負担を縮減する。昨年私が東京大学に委託したシミュレーションでは、現行7000万円近くの補助金が1500万円程度にまで縮減されるとの結果が出ている。

　三つ目は、応用がきく点である。ドア・トゥ・ドアの公共交通である「コンビニクル」は、「人を運ぶついでにモノも運ぼう」といった物流網への応用が可能であり、これは国土交通省への照会により現行法制下で対応できることも確認済みである。買い物支援など商業・農業への応用範囲は広い。

　以上が「コンビニクル」導入を求めるゆえんである。所見を伺う。

答 勝山市にどこまで導入できるのかどうかという実証実験を踏まえて、取り組んでいかなければいけないというプロセスは必要であろうが、非常に魅力的な提案であるので取り組んでいきたいと思っている。

コンビニクル実施車両例

倉田議員

勝山市における農業振興の課題について

問 勝山市の農業について考えるとき、「農業経営」の側面と「農地保存」の側面があり、この両面から対応を考える必要がある。

①勝山市内の耕作地全面積のうち、約4割は中山間地や市街化区域内の農地であり、「農地保存」の側面から考える必要があると思うが、勝山市の農業振興の中心となる課題は何であると捉え、どのような施策に取り組まれるか。

②集落営農組織を持たない、あるいは認定農業者がいない集落数とそれらの耕作地総面積はどのくらいであると把握しているか。また集落営農組織等を持たない集落への支援はどのように考えているか。

③農地保存の側面からみれば、機械購入補助などを含めた後継者への支援を中心に求めていくべきであると思うが所見を伺う。

答 ①総合計画基本計画案で、第1に掲げていることは「集落を基盤に考える地域農業の振興」であり、内容として活動主体となる「ヒト」や「体制づくり」を支援していくことである。

②認定農業者等のない集落は22年度現在54集落、水田面積は23年度水田台帳で約980ヘクタールになる。ただし近接する集落の認定農業者等によって経営する水田面積も含む。

　支援にJAが取り組むべきことを強く促すことは当然であるが、農業公社のさらなる機能の充実も図っていきたい。

③国や県に要望する場合に、どのような理屈が考えられるか研究していきたい。

えごまの収穫